

事業所自己評価表(第7回)

事業所名:スミール

記入年月日: 令和7 年 8月 27日

		チェック項目	職員からの意見 (工夫している点、課題や改善すべき点など)
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	活動の種類によって家具の配置を変えやすいように工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	職員間で連携が取りやすい配置を意識している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	トイレや手洗い場など、移動しやすい配置を心がけている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	匂いに敏感な子への配慮として、芳香剤の使用を控えている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	会議の議事録を共有し、全員が改善の経過を把握できるようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	評価表で得られた要望を翌月の活動内容に反映している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	初回の実施で不十分な点もあったが、次年度に改善予定。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	研修報告書を全員で共有し、現場活用に繋げている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	既存のフォーマットを改善し、より記述しやすくした。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	職員ごとに評価基準の差が出ないように研修を実施している。
	11	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	予定通りに進まない場合は、その要因をチームで検討している。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っているか	ミーティングでは前回の振り返りと改善提案を必ずセットで行っている。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	同じ内容でも目的を変えてバリエーションを持たせている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	集団に苦手意識のある子には、少人数グループを設定している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	行動観察が必要な子には担当職員を明確に決めている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	振り返りの時間を形式的にせず、学びの場として位置づけている。
関係機関や保護者との連携	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	記録をただの「報告」ではなく、次の支援の「材料」として扱っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	支援の継続・変更を客観的に判断する仕組みを整えている。
	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	会議の目的を事前に共有し、効率的に進めるようにしている。
	20	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	保護者の意見をまとめ、関係機関への橋渡し役を担っている。
	21	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	他機関と合同研修を開催し、支援方法を学び合っている。
	22	子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	医師との情報共有がスムーズに行えるよう、書式を統一している。
	23	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	相互訪問を通じて、子どもたちに社会的経験の場を提供している。
	24	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	子どもの行動変化があれば、すぐに保護者へ共有している。

		チェック項目	職員からの意見 (工夫している点、課題や改善すべき点など)
保護者への説明責任等	25	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	利用料変更があった際は、文書で早めに周知している。
	26	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	支援方針の根拠を伝え、納得してもらえるよう心がけている。
	27	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	緊急性のある相談には、即日対応を心がけている。
	28	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	会の運営に職員が立ち会い、情報共有や調整をサポートしている。
	29	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	対応の経過を記録し、再発防止につなげている。
	30	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	活動紹介だけでなく、職員コラムも掲載して親近感を高めている。
	31	個人情報の取扱いに十分注意しているか	保護者からの同意を得た範囲でのみ情報共有を行っている。
	32	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	コミュニケーション研修を受け、伝える力を磨いている。
非常時等の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	感染症対応では保護者向け文書も整備し、理解を得ている。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	災害時を想定した役割分担をマニュアル化している。
	35	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	健康情報の更新を定期的に保護者へ確認している。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	職員全員が食物アレルギー研修を受け、対応方法を理解している。
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットの内容を一覧化し、共通傾向を把握している。